

## 人類生態学班

### 人類生態班サマリー

門司和彦・金田英子・奥宮清人・中村 哲

1. 本研究班はラオスにおける人口転換・疫学転換・栄養転換の実際と相互関連をコミュニティレベルで解明することにある。全体的展開過程を人類生態転換 human ecologic transition と呼ぶこととする。
2. この研究をカウンターパートであるラオス国立公衆衛生研究所 National Institute of Public Health, NIOPH の研究として遂行する。そのため、2003年8月7日にNIOPHと研究協定を締結した。協議の結果 Health Development Study in Lao PDR というNIOPHプロジェクトとして実施する。NIOPH中にプロジェクト事務所を確保した。
4. 調査地はLuang Nam Tha, Savannakhet, Attapuの3州から各1 districtを選んでその中で実施することとし、2003年度はサバナケット Savannakhet を対象とすることとした。また、調査対象によっては必要に応じてNIOPHと話し合いそれ以外の地域で調査を実施することとした。
5. 11月にサバナケット州で予備調査を実施し、12月に州保健局と協定を結び、Sonkong District を調査地とした。具体的にはLahanam Zone 6村を対象に活動を開始した。
6. 2004年1-2月に松林・奥宮・金田らが調査地に入り、個別報告にあるような活動を行った。一方、中村を中心とするグループはビエンチャンおよびチャンパサックで調査を実施した。
7. 2004年度はLahanamにNIOPH Field Research Station を開設し、初期からの目的である長期的、継続的な調査を実施する予定である。